

四月から町公民館長を務める

河内^{かわち}直史^{なおし}さん
善久・六十三歳

公民館長というのは、町の社会教育の中では、学校教育での校長先生にあたるものだという。

この四月から町の公民館長となる河内さんは、実際に白根高校の校長先生を勤めたことがある。

経歴としては、保健体育の教師として高等学校教育に携わっていた時代が長かった。しかし、一時期、県の教育委員会の職員として県内全域を巡回スポーツ指導で回ったこともあるし、巻町にある県の青少年研修センターの所長も二年間勤めた。「ですから、学校教育と社会教育をうまく結びつけていくことが、いかに大事か痛感しています」と河内さんは言う。

住まいは善久で、昭和三十九年から二十七年間住んでいる。「善久、山田、寺地といった北部地区は新潟市内に勤めているかたが多いでしょう？ 市内の動きに刺激されて、新しく黒埼の住民になられた皆さんのほうが文化芸術活動に積極的のようです。北部地区公民館は私もよく利用するのですが、その利用のされ方を見ててもそんな感じがしますね」

それでは、中央公民館についてはどうですか。「北部の人間から

見ると遠い感じがどうしてもしますが、それに一度見ただけです、スペース的にも手狭ですね。ですから、中央公民館としては立派な施設を町行政は考えてほしい。

日本の社会は情報化、国際化、高齢化が今後とも進むと考えられ

るが、それに対応するためにと、国などでは「生涯学習」ということを声を高めて言っているようだ。学校を卒業したあとも、学び続けなくてはこれからの社会をよりよく生きていくことはできない、ということなのだろう。そうした動



河内さん。教員生活を保健体育一筋にやってきました「社交ダンスは一応なんでもこなします」。半年ほど前はボケ防止にリズム、ステップをふむことと自転車に乗って遠乗りにでかける。「半日くらいで佐潟あたりへ帰ってきます。気分転換には最高です」。

きの中で社会教育活動に熱い期待が寄せられている。「各市町村とも社会教育に力を入れているようですが、長続きさせるためには、ヒト・モノ・カネが必要ですね。たとえば、指導者の問題です。責任をもって指導をしていただくにはそれなりの対応をしなくては意欲をそぐことになるのでは。なんでもかんでもボランティアというわけにはいかないと思います。では、公民館長としての抱負は、「町の社会教育の拠点となるのが公民館。その内容充実のため、最初は町の社会教育の実態の把握ですね。そうすることで、多様化した町民の皆さんのニーズにこころを配るような活動を進めていきたい。人づくりと心かの時代とか言われますが、自分たちが住んでいるところに誇りを感じること、それが公民館活動の原点だと思います」。

ほんの一冊

男と女の進化論
竹内久美子・著
(新潮社)

背の高い男や口のうまい男はなぜ

モテるのか。女のシワはなぜできるのか。なぜ男性はハゲるのか。芸術にどんな意味があるのか。こういった身近でありながら考えてみると実に不思議な疑問に、進化論の立場から一つの答を与えようとするのが、この本です。人間をただの動物として見てるだけじゃないか、という批判も出てきそうですが、常識的な人間観にゆきぶりをかけてくれることは確か。歯切れのよい文章も魅力的です。ぜひ読んでみてください。(この本は町立図書館にあります)

〈人の動き〉		前年	
2月末日現在 (前月比)	人口	同月比	同月比
人口	23,615 (+20)	[+256]	
男	11,575 (+6)	[+111]	
女	12,040 (+14)	[+145]	
世帯	6,342 (+4)	[+118]	
2月1日～末日			
出生	16	転入	54
婚姻	4	転出	43
死亡	8		



4月から募集します

- ◆カットやイラストの描ける人
- ◆四コママンガの描ける人
- ◆インタビュアーやレポーターをしたい人
- ◆本を紹介してくれる人
- ◆編集に興味を持っている人

どうぞ、お気軽にお申し込みください。または、お知り合いの人をご紹介ください。上手下手は問いません。申し込まれたかたには順次依頼させていただきます。薄謝ですが、お礼いたします。また、楽しい話題や頑張っている人もご紹介ください。

▼連絡先・役場企画商工課広報係
☎377-3101



四月は、卒業と入学、人事異動などで、別れと出会いの時期。▼広報の編集は四月以降もこれまで同様、岩野が担当します。担当者は変わらなけれど、企画開発課から企画商工課へと所属する課が変わりました(この号の九ページをご参照ください)。気分を一新して、がんばりたいと思います。今までと同じく皆さんの協力をお願いします。(岩野)

●来月号
議会三月定例会 についてお知らせします。